

大 島 海 峡 : 海 洋 生 物 の 楽 園

奄美大島と加計呂麻島の間にある大島海峡は、20km ほど北西から南東に流れ、幅は平均 2～6km ほど。海峡の両側がリアス式海岸と呼ばれるでこぼこしたいびつな形をした海岸である。リアス式海岸は深く、漏斗のような形をした入江は、増水した海水が川の谷間に侵食し、両側に残った岬が突き出る形となる。

マ リ ン ス ポ ー ツ と 産 業

大島海峡の沿岸には多くの小型のビーチが集落などの周辺に所々あり、海岸にはサンゴ礁が広がっているため多くの海洋生物がいることから、ダイビングやシュノーケルスポットとしても人気。海峡は礁斜面から深さ 50～70m ほどあり、ウミガメやイルカ、冬にはザトウクジラが回遊してくる。奄美大島の島民はクロマグロや真珠の養殖を行い、カツオなどの食用魚を釣る。大島海峡は狭く、穏やかな海のため、数百年前から台風の強風や高波から避難する場所にも使われている。